

ぎふメディアコスモス「2階天井からの漏水に関する報告書」の概要

1. 再提出された報告書の概要について

(1) 報告書の提出

- ・平成 28 年 9 月 30 日（金）に設計者・施工者が共同で提出された。

(2) 漏水の原因

- ・屋根内部の結露水の落水が原因。（屋根外部面からの雨漏りが原因ではない。）

◆結露の原因となる水分供給源とメカニズム

水分供給源

- ①：今回の屋根工事は、長期間（約 3 か月）であったため、工事期間中の降雨により、屋根内の建材全体が水分を通常より多く吸収した。
- ②：室内から下記の湿気が屋根内部に流入している。
 - ・人体が発生させる水分等
 - ・コンクリート床、躯体が乾燥する過程で放湿した水蒸気
（屋外からの湿気の流入はほぼ無い）

結露のメカニズム

【初期（H27.4～5月）】

- ・主に①の水分により、屋根内が湿気のこもった状態（相対湿度が 100%）
⇒屋根内部下部の比較的温度の低い鋼材で結露し水滴が発生

【現在（H27.8月～）】

- ・上記①、②の水分が、屋根内の建材で吸湿しきれず、
⇒低温となった屋根内部上部の建材表面等で結露が発生

(3) 今後の対策（案）

◆これまでの仮設換気の実績

- ・換気装置を 3 台にした以降（本年 7 月 10 日の漏水後の 7 月 15 日に設置）
⇒屋根内部の湿度が低下し、現在まで漏水は発生していない。

→ 報告書提出後の 10 月 2 日に漏水が発生

こうした実績から、

⇒換気装置 3 台による現在の換気を設計者・施工者共同負担により、
耐久性・意匠性に配慮した方法で常設設置する。

なお、コンクリートの放湿は一般的におよそ 2 年間程度で落ち着くため、
今年位までは結露しやすい環境にあることから、引き続きモニタリングを実施する。

2. 市の対応

- ・10 月 2 日に発生した漏水について、本報告書を踏まえた報告書の提出を求める。
- ・両報告書について、4 名の外部アドバイザーを含む、「ぎふメディアコスモス建物等の課題に関する検討会議」において、
⇒検証し、本市として見解、方針を定める。